

# 安価で安定したMIMO環境を実現

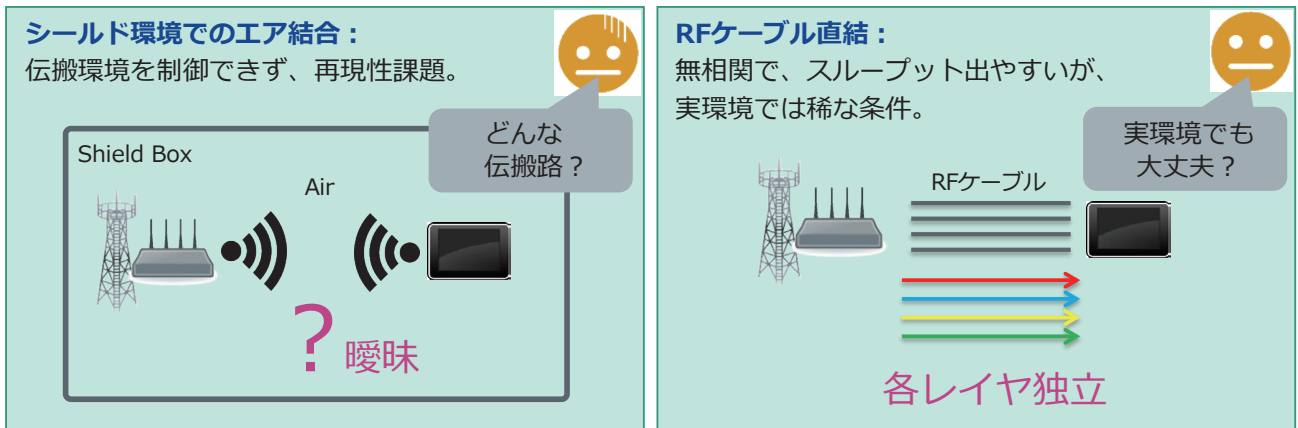
STACSIM (Static Channel Simulator) ACC-290

STACSIM-WB (Static Channel Simulator) ACC-339



## MIMO端末の評価に関する有効な伝搬環境の構築

通常、MIMO 端末は基地局やルータなどからの各アンテナの出力信号をエアを経由してすべての受信アンテナで受信します。ですが信号がどのような伝搬路を通して受信アンテナに到達しているのかはわかりません。また、試験環境により大きく左右されるため、エアで各アンテナの受信パワーを毎回一定にするのは困難です。一方でアンテナ間をRFケーブルで接続した場合は、再現性はありますが、他アンテナの出力信号を受信しない(無相関)ため、実環境とは大きく異なります。



STACSIMは、各アンテナの信号に相関を持たせて受信させるため、実環境の伝搬状況に近く、かつ固定の伝搬路を通ることによって外部に影響されない安定したPowerを受信アンテナは受信し再現性も保たれます。



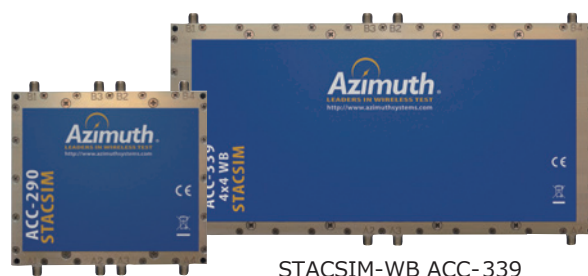
## STACSIMとは

本モジュールは、Butler Matrixの伝搬経路を構成したモジュールです。

1ユニットで常に安定した4×4までのMIMO環境を構築できます。

700 MHzから6 GHzまで広い周波数帯に対応しているため、Cellular 5G、LTE、Wi-Fi、Bluetooth、IoTなど広い用途で使用できます。

- 広い周波数範囲で広帯域でフラットなチャネルを実現
- 4×4MIMOまでの固定伝搬路(SISO、1×2、2×2なども可)
- Uplink/Downlink 双方向 同時使用可能
- メンテナンスフリー (パッシブデバイス)
- 優れたアイソレーション



STACSIM ACC-290

STACSIM-WB ACC-339

## STACSIM ACC-290/STACSIM-WB ACC-339 仕様

### 位相

Reference Input Port	Expected Values of Phase at Output (ports in degrees)			
	B1	B2	B3	B4
A1	-45	-90	-135	-180
A2	-135	0	135	270
A3	270	135	0	-135
A4	-180	-135	-90	-45

### RF

周波数帯域	ACC-290: 2.4GHz~2.5GHz、4.9GHz~5.9GHz ACC-339: 700MHz~6.0GHz
RF構成	Input: 4 × Output: 4
挿入損失	10 dB (代表値)
Amplitude Balance	ACC-290: 1.5 dB max. ACC-339: 3.7 dB max.
Phase Balance	±30 ° max.
Isolation	ACC-290: 20 dB min. ACC-339: 15 dB min.
総入力パワー	+30 dBm/port (他Port未入力にて)
インピーダンス	50Ω
VSWR	1.5: 1
入出力コネクタ	SMA (f)
動作温度範囲	-10~+40 °C

## その他のAzimuth製品

また、STACSIMに変可アッテネータ機能を付加したRFCM-Bや、可変伝搬路を構築可能なACE RNX Channel Emulatorなど、さまざまな無線伝搬に関するシミュレータを用意しております。詳細は、弊社営業担当までお問い合わせください。

